



## 木村長門守重成公 ― 大坂之陣の若桜 ―

### 一、はじめに―蓮城寺の由緒と木村重成公―

▽このお寺は、妙法山 蓮城寺（れんじょうじ）といい、日蓮宗（総本山身延山久遠寺）に所属します。はじめりは天平年間（729～749）にさかのぼり、この土地には氏寺・若江寺があつたとされています。平安時代には比叡山延暦寺第十三代座主尊意僧正が若江寺に寄宿したことが伝記『尊意贈僧正伝』等によって知られます。おそらく天台宗系寺院として、また現在隣接する若江鏡神社の神宮寺として栄えたと思われます。

その後いつしか若江寺は衰退し消滅したとされますが、南北朝時代には当地に若江城が築かれ、永禄年間（1558～1569）には若江城主三好義継公の菩提を弔う香火寺として興隆していたとも伝わります。しかし、天正元年（1575）の織田信長公による若江城落城には若江寺も無住状態となり、ことに慶長二十年（1615）の大坂夏之陣には、木村長門守重成公の本陣が近くに構えられ、当地は戦場と化しました。特に若江の戦いの時は隣が神社なので、お堂の近辺に重成公の首を一時置いて干した（血抜き？）といわれています。その後、いろいろな宗派の遊行僧が再興をはかろうとしたことが伝わっています。

元禄六年（1693）現在の京都市左京区にある日蓮宗本山頂妙寺第十四世および千葉県市川市にある日蓮宗大本山中山法華経寺第三十九世になられた蓮性院日相上人が隠居するに際し、当地の因縁と若江寺の由来を惜しんで私財を投じ、堂宇を建立して復興いたしました。その時に寺号を蓮城寺に改め、以後日蓮宗寺院として現在に至ります。

境内地には、日蓮聖人生誕七百五十年を慶讃して、昭和四十三年に建立した鉄筋建ての本堂、明治時代靈驗顯著なことで近在の人々の信仰をあつめた当山十二世真光院日養法尼建立の妙見堂があります。また、山門を入って右脇の位牌堂には大坂夏之陣木村重成公の位牌を安置し、その霊牌所として有名です。通称、宮寺（みやてら）と呼ばれています。※蓮城寺が木村重成公の菩提寺として紹介される記事等がありますが、蓮城寺は木村重成公の菩提寺ではありません。

### 二、木村重成公とは？

#### 1、大坂の陣（1614～1615）の時、豊臣側の武将。

大坂城に立て籠もった七人衆の一人

①真田信繁（幸村） ②毛利勝永 ③長宗我部盛親 以上三人は元大名

④後藤又兵衛 ⑤明石全登（てるずみ） 上記五人が（牢人）五人衆

⑥大野治房 ⑦木村重成 以上七人衆 二人は豊臣家譜代の家臣

最後まで大坂城に籠城したのは、豊臣秀頼・淀君（茶々）・大野治長の三人

#### 2、一般的に有名な話し

①戦前の『尋常小學修身書』現在の小学校3年生ぐらいの教科書

立派な人物の逸話集として↓木村重成は勇氣と堪忍 の話し 茶坊主の話し。

②大坂冬の陣の時の堀を埋める交渉↓家康に和睦の血判誓書をもろう。

③大坂夏の陣の時の若江の戦い↓甲冑にお香を焚いていた。

▽「真田幸村が大坂の陣の華ならば、木村重成は花であり 若桜といったところであろうか」永岡慶之助著『大坂の陣人物伝』より

※小和田哲男著『新・日本武将100選』の99人目 として数えられている。因みに1人目は坂上田村麻呂 最後の100人目は天草四郎

※長門守の〇〇守（かみ）名は、朝廷からの正式任官ではなしに、勝手に付けた「僭称」と呼ばれるもので、戦国時代は殆ど僭称で、地名と全く関係なく箔付けの為に名付けた。

### 三、出生の諸説と人物像

#### 1、出生の諸説

▽文禄二年（1593年）生れ？ 慶長二十年（1615年）五月六日没 享年二十三歳  
生誕地は、おもに、

①近江国坂田郡馬渕村の生れ。

②紀伊生れ。雑賀衆出身か？

③日向国（宮崎県）佐土原生れ？  
の三説。その他諸説もあり。

▽父は木村常陸介重茲（しげこれ）。

▽母は秀頼の乳母（めのと、うば）・宮内卿局もしくは右京太夫局。

※現在は木村重茲の養子である説が有力。秀次謀叛事件の時、重茲は茨木市大門寺で切腹。子供（義兄）は木村志摩守で同じく自刃もしくは斬首。

▽実父は、近江国佐々木源氏の血を引く、佐々木三郎佐衛門で、六角家の家臣。一旦紀伊に隠棲か？秀頼の乳母を探すことを聞いて、木村重茲に重成を養子にして、母・宮内卿局は乳母として大坂城へ出仕。その間に実父・佐々木三郎佐衛門は死去した？

実母と重成公は秀次事件で一旦は六角義郷を頼って近江国坂田郡馬渕村に逃れる。

#### 2、人物像

▽聡明で、物静か、物腰も柔らかく一説には声を荒げて怒ったところをみたことがないといわれるほどの人物。身長も大変高く、体格もがっちりしている。顔は色白で眉は黒々としており、目はキリリとしているなど。類い希な気品も兼ね備えており、刀、槍、馬術などの武術にも大変優れた武将。乳兄弟でもあった秀頼に対しての、忠誠の高さもあり若いながらも豊臣家にとっては重要な人物。「戦国最後の美将」、「血染めの美将」※女装とも？

#### 四、子孫及びその所属宗派と墓所

▽正室は青柳？ 側室はいないとされてきたが、

子孫を名乗る家系が多方面にわたり、あまりにも多いので居たのは確実。

▽父・木村重重茲の菩提寺（墓）は茨木市大門寺＝真言宗御室派

## 1、子孫及びその所属宗派

①東大阪市在住説：遺児・門十郎の子孫 東大阪市吉原西光寺Ⅱ浄土真宗本願寺派

「西光寺伝によると、近江源氏ゆかりの近江観音寺城佐々木左右衛門尉重綱が、若江城から始まった応仁の乱以後の戦国時代、落城とともに7人の武将と共にこの地に来た。吉原が七軒屋（九軒屋という説もある）ともいわれたのはこのことに由来している。重綱は藤井弥惣太と改め、蓮如上人に帰依し正善と号した。永正6年（1509）に西光寺を開基した。―中略―その木村重成は近江観音寺城、佐々木氏と縁があり、親戚であった藤井氏に以前に姉が身を寄せており、出陣直前、遺児・門十郎を預けている。その後、門十郎は藤井氏の養子となったと、本堂屋根裏の木箱に納められていた〈古文書〉記されているという。」またその時（慶長二十年五月二日）に重成公は武具や蒔絵、硯箱等を形見として大坂城から藤井氏に送った資料がある。木村美恵子著〈希望は達せられた〉より

②仙台市在住説：北原山正楽寺Ⅱ浄土真宗

正楽寺には、重成公の室・妙意と曾孫の智鏡信尼の墓がある。青柳と妙意の関係は不明。妙意は丹波守京極高国の乳母で一五六五年難波生れ。一六〇七年頃重成公に嫁ぐ。二子を生む。嫡男は備前池田忠雄の近臣。一六六六年、丹後から京極高国領地没収により、妙意も盛岡に住む。その後仙台に移る。以下省略

※『木村長門守重成室妙意と曾孫智鏡信尼』『道之芝露』に詳しい家系図と解説がある。

③伊達政宗の関係で子孫は東北地方にかなり多い。秋田県湯沢市の木村酒造のホームページには家系図まで載っている。

④同じく妙意の関係で江戸に移り、現在東京、神奈川に子孫多い。宗派は天台宗や臨済宗

⑤現在の近江八幡市馬渕町近郊に在住：六角（佐々木）義郷の関係で？宗派不明。

⑥岡山県備前市から四国に渡り、吹田市在住の国際画家・木村美恵子氏 浄土真宗仏光寺派

⑦福岡県飯塚市在住：キャスターの木村太郎氏及び親族

※『産経新聞夕刊』平成27年7月7日号・大坂の陣四百年「家康感服 比類なき美学」

⑧福岡、宮崎、熊本、鹿児島（島津藩の関係）等、九州にも子孫を名乗る家系が多い。

⑨山梨県甲府市要法寺に子孫の墓あり。徳川秀忠公の四男保科正之との関係。日蓮宗

## 2、墓所

①滋賀県彦根市浄土宗・宗安寺（元禄年間には塔頭四ヶ寺を有し中本山格の寺院）に首を葬った墓がある。宗安寺は彦根城初代藩主・井伊直政公の菩提寺。家康公尊牌奉安所。



②八尾市幸町六丁目にある木村重成公墓地：大阪府指定文化財



「大坂夏の陣で戦死した重成の墓は、もとはここから東五〇メートルの地点にあったが、昭和四二年第二寝屋川の開削工事により、その川筋にあったのでここに移された。この墓は、宝暦一四年（一七六四）重成の一五〇回忌にあたって、重成の首を落とした安藤長三郎の子孫で、彦根藩士安藤次輝が建てたもので、昭和一四年大阪府の史跡として指定されている。」

※以前、蓮城寺に來られた井伊家の子孫の方は「井伊家が明治まで栄えたのは、重成公の首を頂いたからであり、「いつかは八尾市の胴体の墓と首の墓を一緒にしたい」云々。

③宮城県石巻市日和山公園の一角に、伊達政宗等が首から下胴体を持ち帰って埋葬した？

五、大坂之陣における活躍

1、冬之陣

◇鳴野・今福の戦い・図①

▽慶長十九年十一月二十六日朝、徳川方秋田城主・佐竹義信が大和川北側の今福の堤の柵を破り、攻撃をかけたに始まる。重成公が応戦し、佐竹隊を押し戻したが、大和川南側の鳴野に居た徳川方・上杉景勝隊に側面から射撃を受けて立ち往生。それを見ていた豊臣方・後藤又兵衛が助けに行く。また、豊臣方・大野治長隊も駆けつける。戦死者両軍六百名以上とも。特に佐竹隊の重臣が多く戦死。冬の陣唯一の最大野戦。尚、重成公は初陣。

▽慶長十九年十二月四日 有名な真田丸の戦い・図②

2、和睦調印式

▽血判誓書↓調印式の時、豊臣方の使者として家康が本陣とした茶臼山で誓書を受けた時、「血判が薄く見えかねます」と突き返し、再度家康に血判を押し直させた伝説。

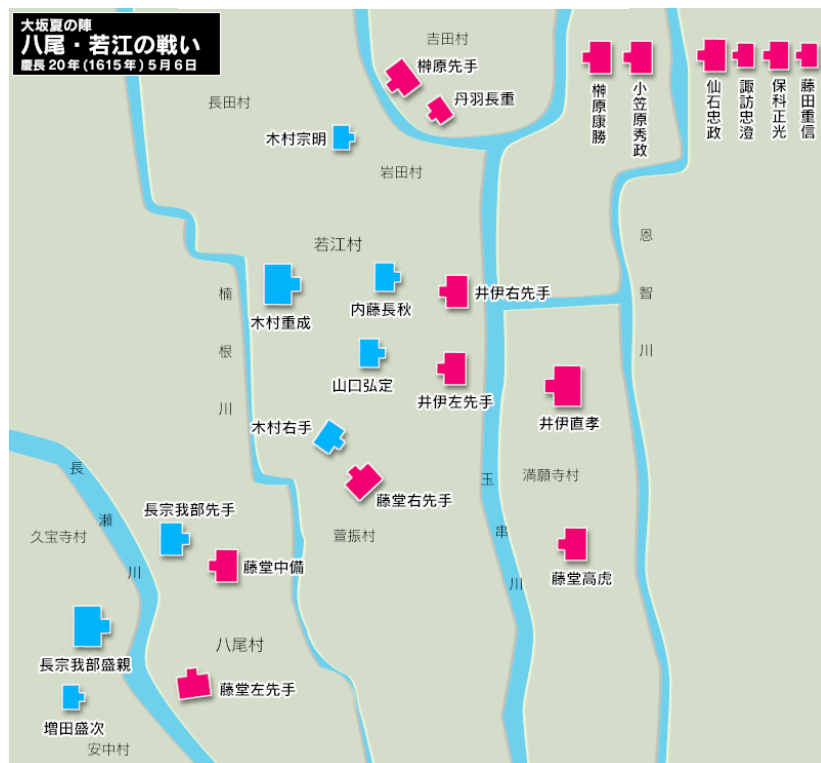
▽『大坂冬陣記』では、二回調印式が行われ、一度目は常高院ほか二名の女性が家康の元へ。二度目に、重成公ほか一名が、徳川秀忠に血判書をもたらした。一説には二条城で。

3、夏之陣

◇八尾・若江の戦い・図③

※重成公辞世の句「五月雨（きみだれ）や 啼（な）いて今夜は 不如帰（ほととぎす）」

図③ wikipedia より



図④ 藤舎呂雪「大坂落城之図 木村長門守 藤堂和泉守」より



図① wikipedia より



図② wikipedia より



▽慶長二十年五月六日 目的は星田から生駒山東面を縦走する徳川方の側面を攻め、秀忠の首を取るため。八尾は長宗我部盛親隊と藤堂高虎隊が激突。藤堂隊の右翼と木村隊が激突し、壊滅させるも、後ろの井伊直孝隊と続けて戦う。最期は井伊隊の先方庵原朝昌と一騎討ち・図④。その首を安藤長三郎が貰う。井伊直孝が家康に差し出し、首実検。

## 六、没後の時代別評価

▽首実検の時、兜の緒の結びを短く切って外れにくくなっており、外すと兜と髪からお香（伽羅）が漂った。家康はその比類なき武士の嗜みに感嘆したのはほぼ事実。

▽重成公は美貌で勇敢な主人公として江戸時代中期に浄瑠璃や歌舞伎に登場。明治時代末期から昭和10年代にかけて芝居や無声映画（小阪に在った帝国キネマ制作・市川百々之助主演「木村長門守」）も制作される。

▽戦前の修身の教育で茶坊主の話し「ならぬ堪忍、するが堪忍」の教訓

▽戦後は戦前の反動で主役として映画やドラマ無し。

※戦後木村重成を演じた有名俳優

・若山富三郎 (31) 「あらくれ大名」 (1960・東映) ・梅宮辰夫 (26) 「それからの武蔵」 (1964・MBS) ・北大路欣也 (23) 「真田幸村」 (1966・TBS) ・細川俊之 (30) 「大坂城の女」 (1970・KTV)

※最近の大河ドラマでの木村重成役

・井上倫宏「真田太平記」 ・畠中洋「葵三代」 ・白石隼也「真田丸」 (2016・NHK)  
▽最近は再評価されている。※白駒妃登美著『感動する！日本史』―命以上に大事なもの―

## 七、むすびに

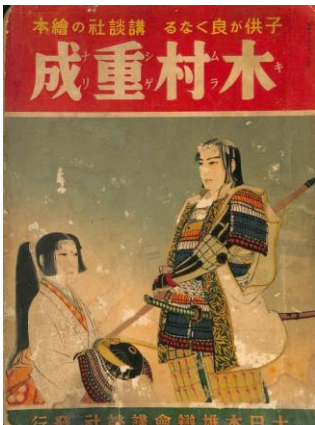
▽東大阪市観光協会主催・大坂夏の陣―若江の合戦シンポジウム―にてパネラー「大坂夏の陣に関する若江のいいたえ」 ー平成26年6月7日・大坂商業大学ユニバーシティホール蒼天に於てー

「大坂夏の陣で豊臣方が徳川方に敗れ、無念の思いで殺された豊臣方の武士が成仏できず古戦場の火となり、戦場となった河内国若江を漂うようになった。若江の農民が田んぼの上に鬼火が数個固まり、現れたり消えたりを繰り返して移動し、何かを探してうろつき回っているようだ。」江戸時代の怪談集『宿直（とのい）草 ー戦場の後火燃ゆる事ー』  
▽八尾・若江の戦での戦死者約1400名程とも

◇戦争というものは、いつでもどこでも、とても凄惨であり、恐ろしいことです。多くの人の命が失われているという事実がそこにはあります。映画やドラマとは違います。

○敵味方関係なく一切の戦没者を供養するのが、仏教の立場です。仏教では「怨親平等（おんしんびようどう）」と云います。

◎先の『大坂の陣人物伝』にもある「若桜」「水仙花」「背丈高く面立ち気品のある美丈夫」又「沈勇の士」「血染めの美将」「絶世の美男子」等々。首実験の時徳川家康に「これこそが武士の鑑」と言わしめた重成公は間違いなく身心ともに日本一のイケメン武将だろう。戦国イケメンランキングが意外に低いので、みんなで評価をあげよう！！



小林 秀恒 「大日本雄略記」表紙より



小山栄達「木村長門守」より



©コーエーテクモゲームス

『信長の野望〜俺たちの戦国〜公式Twitter』より

## ◆贈正位木村長門守重成公事蹟略

長門守重成公は 木村常陸介重茲(しげこれ、もしくはしげとし)の子。母氏は右京太夫局なり。重茲 関白秀次公の事に座して罪を得 自盡するや重成

未だ襁褓きょうぼうの中に在り。其の乳母 抱いて近江に匿かくまる。長するの後 豊

臣秀頼公に仕え長門守と称す。威名あり 秀頼公深く之れを恃たのむ。

慶長十九年大坂冬の陣の起るに及び 重成一方の將として上杉景勝 佐竹義宣と奮戦して軍功著し 和議成るの後 秀頼公の命を奉じ 使者として單身徳川家康公の軍營に到る。挙止端正にして進退度あり。

環列の諸將 悉みな之れを頌す。翌年又夏の陣の起るや重成 兵四千七百を率いて若江に出で 藤堂高虎の右翼隊と戦いて大に之れを破り 其の將藤堂新七を得 進んで玉串川の堤に迫らんとす時に 井伊直孝の高安を発し道明寺に赴かんとするに会し 重成手兵を堤げて奮闘力戦 勢當る可からず 井伊隊為に風靡すること数回 重成必死を期し馬を馳せて直孝の陣を突く。直孝麾下きかの老将庵原助佐衛門 長槍を揮ふるつて之れと渡り 遂に重成其の手に討うたる。安藤長三郎 重成の首を馘かくす。重成時に年二十一。

重成若年軍略に長じ 事に當つて 沈毅剛膽 老成の風あり。容姿淡麗にして典雅の襟度きんどを備う。此の戦初めより生還を期せず。出陣に際し 甲冑の下に母の小袖を着し 頭髮ふくいくに伽羅きやらを炊(漢字は火偏に主)き込めしが故に 首実験に當り香氣馥郁たり。家康公深く嘆賞すという。重成夫人は 重成家門を出づると共に 激励の遺書を置いて自害せり。  
貞烈長しへに爾後人を感動せしむ。

昭和八年十一月

不空 平眞鍮 謹記 花押

## ◇現代語訳

木村長門守重成公は木村常陸介重茲の子供。母は豊臣秀頼公の乳母でもあり、木村重茲公は、関白豊臣秀次公が謀反の疑いをかけられた際、秀次公に倣い茨木市大門寺にて自害した。重成公その時はおむつ（襁褓）の取れない幼子であった。母の右京太夫はその子を抱え、近江の地に難を逃れた。その後事情があつて、秀頼公に仕えた重成公は「長門守」の武将官位号を頂いた。重成公の大坂城内の振舞いは若い時から有名で、秀頼公も頼もしく思っていた。

慶長十九年（1614）大坂の冬の陣が起こると、城東区今福、嶋野で東北勢の上杉景勝隊や佐竹義宣隊と激突し、初陣ながらもその勇猛果敢な戦いぶりは大坂城で大変称賛された。和議になると、秀頼公の使命を受けて、単身家康の陣営に行き、その振舞いが余りにも堂々とし、しかも節度あり、家康公を囲む歴戦の武将たちも感心し讃えた。

翌年の慶長二十年（1615）夏の陣が始まると重成公は四千七百の兵を率いて若江に至り、徳川方の藤堂高虎隊の右翼隊と激戦し、その隊長の藤堂新七を倒し、玉串川のほとりに至った時、高安を出発し道明寺に向おうとしていた徳川方の井伊直孝隊と会した。その井伊隊の先方隊をも数回に渡り壊滅させた。しかし、重成公は、さらに徳川勢最強部隊の井伊直孝隊の本陣を狙い、死を顧みず長槍を取って馬に跨がり突撃し、直孝直々の家来の庵原助佐衛門と戦うも、遂に討たれ落馬す。安藤長三郎がその首を取って家康公に渡した。重成公齡二十一才。

重成公、大坂之陣の時最年少にして豊臣方七人衆の一人として軍営会議に参加。その態度は落ち着いていて物事に動じなく、肝が据わっていて翁のようであった。しかもその容姿は極めて美男子で、気品に溢れ、度量の大きい人物であった。この夏之陣は最初から生還できるとは思わず、出陣に際し、甲冑の下には、母の小袖を着、頭髪には伽羅という香木の香りを付け、大坂城を発った。家康公の陣での首調べの時にはその香りが辺り一帯に蔓延し、家康公がつくづく感心して褒め讃えたのはあまりにも有名である。重成公夫人は、大坂城内の重成公の邸を出るのを見とどけ、自らをも奮い立たせて遺書を遺し自害した。その貞操観の素晴らしさは長く後々の人々を感動させているのである。

※木村重成公は、大坂城から討って出て戦死した豊臣方唯一の家臣の武将です。真田幸村を始め五人衆は皆牢人衆です。淀君と秀頼公と大野治長は大坂城で戦死し、大野治房は大坂城を出て戦闘したが大坂城に戻った等々、諸説があり最期は不明です。歴史的には大坂の陣は「大坂の役」といわれていて、江戸時代における内乱、合戦と定義されています。しかしながら、大坂夏之陣は重成公の大坂城出陣とその戦死によって、戦国の最後の戦（いくさ）と定義付けられるのではないでしょう。

〒578-0943

東大阪市若江南町2-3-7

木村重成公霊牌所

妙法山

蓮城寺

TEL 06-6721-9183

HP: <http://www.renjoji.net/> mail: [info@renjoji.net](mailto:info@renjoji.net)